

## 希学園 第406回 小5公開テスト 解説動画

下記、URLよりご視聴いただけます。

動画タイトル	URL
第406回公開テスト 小5国語 解説動画(2026年3月8日実施)	<a href="https://vimeo.com/1171252516/1b08a5353a">https://vimeo.com/1171252516/1b08a5353a</a>

1

1 工  
2 本質主義  
3 いくら

4 経験主義  
5 A ウ B イ C ア D 工

6 イ  
7 シ性  
8 遺伝子

9 (記述題)

10 X ウ Y ウ Z イ

11 a 直結 b 合成 c 調節

1 a 開放 b 配置 c 低く

2 X 不 Y クア Z し

3 A ウ B イ C 工 D ア  
4 ウ  
5 イ

6 イ  
7 (記述題)  
8 堂々  
9 工

10 それで。つた。  
11 工

1

9 好奇心と冒険心を持って新しいことに挑戦し続け、多様な経験を積むこと。

2

7 車椅子で店内に入れるようにしてほしいと頭を下げよう  
お願いしに来ること。

(同意可)

(同意可)

配点	
1 10・11 2 1・2	各2点×12 = 24点
1 9 2 7	各6点×2 = 12点
その他	各4点×16 = 64点
100点	

① (毛内括弧『世界一やさしい脳科学入門』より)

- 1 筆者は経験主義的な立場を取っているものの、「遺伝の影響をまったく無視できるか」というとそうではありません」とも述べていた。アは「人間の脳には個人差がない」「アピールしなければならぬ」が不適。イは本質主義の立場であるため不適。ウは経験主義に偏りすぎている。
- 2 「こういう言説」が指すのは「スポーツの才能は遺伝で決まる」「将棋の腕前は生まれつきだ」といった言説である。
- 3 「その」が指すのは問2の解説でふれた本質主義的な立場の言説である。その「証明」方法について述べている文は——線③の他には一か所しかない。「いくら『遺伝で決まる』と断言されてもからです」という、「理由」を述べる形になっている。
- 4 筆者の意見を述べている文である。「環境」の影響を重視していることから経験主義的な立場だと言える。
- 5 (A) は直後が大谷翔平選手という具体例なので「たとえば」が入る。(B) は「もちろん」でいったん自分の意見とは異なる意見に対して譲歩しつつ、「しかし」で自分の意見を述べる形になっている。論説系の文章にはよく見られる形である。(C) は前後で経験主義的な具体例が並べられているため「また」が入る。(D) は「脳は年齢を重ねても可塑性を保っています」ということを理由に「どんなに小さな経験でも大切にしてください」というメッセージを述べているため「ですから」が入る。
- 6 ことわざの知識を問われているのではない。本文の論調と最もよく対応する言葉を選ぶ。人間の能力や才能を「何か見えないものや誰かのせいにして」いる人は、「人間の脳や能力は、生まれた後に積み重ねる体験や学びによって作られていくものだ」という経験主義の考え方を取り入れ、自分で自分の可能性を広げていくべきだ、というのが本文の論調である。
- 7 線⑥をふくむ段落の冒頭が「脳は年齢を重ねても可塑性を保っています」という、◎の文の空らん前後と似たような形になっていることがヒントになる。「可塑性」では字数に合わないため、七字のより具体的な「シナプス可塑性」を答えとする。
- 8 ⑦という設計図は「⑦は設計図だ」と言いかえられる。「遺伝子は設計図にすぎません」など、たびたび「遺伝子は設計図だ」という説明がなされていた。
- 9 どうすれば才能を引き出せるか、能力を発揮できるか、という問いである。「いかに多様な体験を積み重ね、脳の中に、この世の中のモデルを形成するかが、能力の発揮にチョッケツする」「どんなに小さな経験でも、自分の可能性を広げる一歩として大切にしてください」「固定観念にとらわれず、好奇心と冒険心を持って新しいことに挑戦し続けよう」「今日という一日を新たな刺激として受け入れよう」などをまとめればよい。
- 10 言葉の意味を答えるときは、あくまで辞書上の意味に基づきつつ、本文中での使われ方も確認して考えよう。
  - 11 a 「直結」直接結びつけること。「吉」の横画は上が長くなるように書く。b 「合成」二つ以上のものが結びついて一つになること。「成」の筆順に気をつけよう。c 「調節」ほどよくととのえること。「節」の右下は「卩」ではなく「卩」である。

② (まひる『王様のキャリー』より)

- 1 a 「開放」自由に出入りさせること。「解放」「解法」「快報」「快方」「会報」など同音異義語がたくさんあるので気をつけよう。b 「配置」位置・持ち場。「西」を「西」と書かないように。「己」は三画で書く。c 「低」は最後の右下の一面を忘れないように。
- 2 X 「不覚」思わずそうなること。Y 「テイクアウト(テークアウト)」レストランなどの料理を持ち帰ること。Z 「かしこまる(畏まる)」「恐れ敬う気持ちを表して謹んだ態度をとる。
- 3 A 「ぼうっと」後ろの「眺めた」から決める。B 「しみじみと」心の底から深く感じるさま。直前の、車椅子の少年に感心する言葉から決める。C 「ぼろぼろと」後ろの「こぼれていた涙」から決める。D 「ありありと」まるで現実であるかのようにはっきりと見えるさま。後ろの「想像できた」から決める。
- 4 実際に働く大人は、「ゲーム」上で仕事をしたことなど「軽んじて笑ったり」するのではないかと思っている。アは「周りにいない」が不適。イ「喧嘩」を思い出していたとしても、ここで恥じている理由ではない。エ「アルバイト」をそもそもできる年齢ではない。
- 5 「車椅子」「たい焼き」「ハンバーグ」というキーワードで「もしや」と思ったのである。その後さらに情報を得ようと大森さんに「それって、どれくらい前の話ですか?」と聞いている。まだ確信していないため、アは誤り。
- 6 不適当なものを選ぶことに注意。ア「眼鏡をかけている」は直前からすぐに分かる。イ「ふつくらしている」は保険の窓口の担当者が見た目である。「広末くん」の遠くから見た雰囲気やリオに似ていたのを思い出そう。「ひよろつと身の細い」からもイは不適でウが適当だと分かる。さらに「リオを縦に引き伸ばしたような」ともある。ということはリオの「背は高くない」と推測できる。
- 7 「そこまで」という指示語が指す「頭を下げてお願いに来た」を中心し、何をお願いに来たのかを足して書く。
- 8 「でこぼこした世界」という表現を勝生は間違っていると思っているが、ヒントにはなる。リオの「王様」然とした様子に近い態度であると考えられる。態度にとどまらず「生き方」と言ってもよいだろう。注もヒントになる。
- 9 自分のことを思ってくれている大切な友達を生きづらくさせるような「でこぼこ」に憤っているのである。
- 10 「しゃべり方」はリオから移ったのであった。それは「リオとの時間は特別だった」からである。
- 11 各選択肢の前半でウカエにしばらくられる。「強い王様」というのはゲームの実力や肉体的な強さのことではない。「でこぼこした世界」で「身をすり減らしていちいち形を変え」ずに「堂々と」生きるリオの強さに改めて気づいたのである。それは精神的な強さ、ひいては人間的な強さと言える。自分との喧嘩で傷つくような「弱い人間」ではないのであった。——線⑧直前の「傷つかないように」には「自分が」、「傷つけないように」には「リオを」という言葉がそれぞれ省略されていると考えられる。「遠慮なんかせず、リオに会いに行けばよかった」からは素直に「後悔」を読みとればよい。ウは「落ちこんでいる」が誤り。